

## 次世代施設園芸導入加速化支援事業について 一般質問



中右 憲利 議員  
(21政会)

**問** 県が鶉野町養鶏場跡地で大規模なハウス栽培団地を整備するということが、その概要はどのようなものか。

**答** 事業主体は兵庫みどり公社で、国と県の補助を受けて施設を整備します。実質的な生産管理、経営を行うのは、JAや先進的施設園芸のノウハウを持った農業者、種苗業者などが共同出資する農業法人になります。

生産については、オランダ式の最新施設園芸技術を導入し、ガラス温

室4ヘクタールを整備して、トマトの生産を予定しております。温室の温度管理には燃料として木質バイオマスを利用し、情報システム技術を活用して効率的な温度、湿度等の管理を行い、ほぼ通年でトマト生産ができます。

出荷先や流通については契約販売を7割、JAを通した市場出荷を3割とし、大阪、神戸、首都圏方面に出荷します。

雇用については、常時80名程度、繁忙期には100名程度の雇用が必要と聞いています。特に1日3～4時間程度のパートタイムでの雇用が一定見込まれており、障がい者や高齢者の就労形態にも合致すると考えています。

**問** 加西市でもトマト農家が何軒かあって、情報交換をしながら努力し、品質を高めて売り上げ

を伸ばしつつあるということだが、今回の事業によって、既存の市内のトマト農家が押しつぶされてしまうということはないのか。

**答** 本事業では市内のトマト生産者の主要な販路である市内での直売を一切行わない方針です。

また、市場価格に与える影響も限定的と考えています。今後トマト生産者の不安に対応するため地域振興部と連携し、県、JA兵庫みらいとともに市内のトマト部会との調整の場を設けて、丁寧な協議を行いながら進めてまいります。

### ■その他の質問項目

- ・住宅政策について
- ・プルマン市との交流再開について

## 投票所のあり方と、加西市の農業の現状と今後の課題について 一般質問



衣笠 利則 議員  
(21政会)

**問** 第23回参議院選挙期日前投票所における問題点と今後の対応について

昨年7月に執行された第23回参議院選挙期日前投票所において発生した、父親にかわって小学生が投票した問題について、内容と問題発生後にとられた対応について。

**答** 平成25年7月4日に公示告示されました、第23回参議院選挙及び兵庫県知事選挙において、市役所多目的ホール、期日前投票所におけます、投票事務執行体

制の概要は、投票管理者、投票立会人、公募の方2名と事務従事者で7名でした。

7月9日午後6時過ぎ親子連れの方が来られ、参議院選挙の兵庫選挙区選出選挙の投票時に子供にせがまれて父親のかわりに子供が記入し投票しました。夕方であり大変混雑しており、目を離れたときに投函されてしまいました。

今後の対策として、期日前投票所内での秩序維持のため、事務従事者を増員し、投票記載所での混雑が生じないように入場者の整理を行い、特に付添者がおられる場合のチェック体制を今後整えていきたいと考えております

**問** 加西の農業の現状と活性化について

最近の農業情勢は目まぐるしく変化しており、日本型農業への移行により、数年後には減反制度の

廃止、補償金の減額が決まっています。当市においては鶉野町に栽培ハウスが整備され、加西市の農業振興の第一歩と思いますが、我々農家にとっての活性化はどの様に考えておられますか。

**答** 最初に新たな農業、農村政策として4つの改革があります。1つ目は農地中間管理機構の創設、2つ目は経営所得安定対策の見直し、3つ目は水田フル活用と米政策の見直し、4つ目は日本型直接支払制度の創設。これらの改革は農地の集積、集約を進め農業を足腰の強い産業とし農業農村のもつ多面的機能の維持発揮を図る目的とされており、今後の農業は担い手への集積が必要となり、米価の下落や経費の高騰などから経営の効率化が避けて通れない状況にあるものと考えています。